2023年度前期　教育改善に向けて大学に支援を求める事項について

所属　文学部

氏名　打田　素之

（1）大学全体に対する教育改善に関する支援について記入してください

ソフト面では、日文・英語学科共に基礎学力の不足した学生をどうするかという問題がある。考えられる改善方法は、「～基礎」「～概論」といった科目の開設だが、そのためには、科目の精査が必要である。各学科で科目の体系化を図るとともに、学科外からの指摘（マネジメント会議）が必要である。具体的に記せば、日文の場合は文学史の知識を修得させる科目、英語の場合は文法の基礎知識の不足を補う科目の創設である。

次にハード面では、非常勤の先生からの提案に書かれていたように、全科目の録画と一部科目の配信の整備である（現在は、各先生が個人的に対応）。後者の場合、恐らく大手の大学ではすでに実施されていると思うが、物理的に学内に存在している学生のみを対象にするのではなく、本学で行われている「興味深い」、あるいは「高度なレベル」の学びを有料で配信することは、今後の大学教育の在り方として一つの方法だと思う。

（2）大学に支援を求める理由を記入してください

基礎科目の創設は、学年全体のレベルアップにつながるし、何よりも学生に「気づき」の機会を与えることができる（英語で言えば、仮定法という文法カテゴリーを「仮定するための方法」と思っている学生の何と多いことか）。

次に、多額の設備投資が必要であることを考えると、非現実的な提案かもしれないが、全科目の録画は、まず科目を欠落なく聞くことができるという点で、学生サービスの向上につながる。また、外部配信については、もちろん公開・非公開の精査は必要だが、本学の教育と研究レベルの高さを外部に知ってもらうことができる。

（3）教育効果について記入してください

学生のレベルがそろって向上することは、外部評価（高校、企業、地域）の高まりを期待することができるが、何よりも学生たち自身に、勉学の充実感を与えることができると思う。

また講義の外部配信は、教員に緊張感をもたらすとともに、研究のレベルアップをもたらすと考えられる。

2023 年度前期　教育改善に向けて大学に支援を求める事項について

所属　人間科学部

氏名　徳山　孝子

（1）大学全体に対する教育改善に関する支援について記入してください

教育改善に向けて①初年度教育（科目名：基礎演習）の見直し、②学生のカリキュラム・ポリシーの理解度の向上、③学科を超えた PBL（課題解決型授業）の仕組みの構築の支援を求める。

（2）大学に支援を求める理由を記入してください

①ICT ツールを活用し各学科の先生方は、学生の学ぶ態度や理解力の向上に取り組み、学生の授業への満足度を高めている。学生間では、基礎力の差があるとともに学習意欲の低い学生も散見する。また、欠席の多い学生の改善にも繋がると考えた。

②カリキュラム・ポリシーは、教育目標やディプロマ・ポリシー等を達成するために授業の内容および教育方法について基礎的な考え方を示しているが、学生のカリキュラム・ポリシーの理解度に疑問視した。そこで、学生は学科ごとに DP、CP とともに科目系列（1 年～4 年）の学びが大切であることを理解する必要があると考えた。

③社会人基礎力の向上を目指すためには、学科を超えた PBL（課題解決型授業）の仕組み作りが必要と考えた。

（3）教育効果について記入してください

①初年度教育のコミュニケーションリテラシーを中心に必要な基礎的内容をもう一度見直す。たとえば、共に考えるグループ・シンキング、言葉で伝えるスピーキング・リスニング、講義を記録するノート・テイキング、情報を編集するプレゼンテーション、文章で考えるヴァーバル・シンキング、資料を集めるデータ・コレクション、図表で伝えるマップ・チャートなどが挙げられるだろう。これらの内容は、1 年生の時に理解していれば学生の主体的な学ぶ姿勢に繋がる。

②学生は、能力育成につながると共に質の高い学びを実現できる。

③学科を超えた学生が集まり、自ら課題を見つけて解決していくことによって、異分野交流に繋がるとともに、社会人基礎力の向上を目指す。学生には、達成感や満足度が得られる。

2023 年度前期　教育改善に向けて大学に支援を求める事項について

所属　　教育学部

氏名　　谷川　弘治

（1）大学全体に対する教育改善に関する支援について記入してください

① Zoom 等を用いた小学校，中学校，高等学校の児童生徒の学生との交流，大学授業の見学の促進

② 高評価を受けている授業のプロセスを分析して，共有しうるスキル等を得る
学生の予習，復習や実習参加者の学びのために授業のビデオファイルが蓄積されている。学生から高評価を受けている授業のすべてがビデオファイルで保存されているわけではないが，このようなファイルの提供を受けて，高評価を受けている授業のプロセス・進め方について，より具体的に検討を行い，教員が共有できるスキル等を明らかにする。

③ ３種教員が１種，２種教員と授業の在り方を話し合い，深めていくための時間をつくることを，公的に推奨していただきたい。

④ 学科独自の資格をつくるためのガイドラインをつくっていただきたい。

（2）大学に支援を求める理由を記入してください

① 児童生徒にとって，学生との交流を行うこと，大学の授業を参観することは，「働く前の学び・準備の姿に触れる」ことでキャリアイメージを具体化することができる。学生にとっては，後輩の目があることが刺激となるだけでなく，質問に答えることで，学びを確認することもできる。大学にとっては，小学生から本学のファンを増やすことにつながる。
学校現場からの要望をうけて，OriHime をもちいて学生との交流を行うなどしてきたが，これを拡張していくこと，とくに，短時間にせよ授業の見学を導入するには，学内の意思決定，参加する学校の開拓，時間等の調整を行うコーディネート機能の明確化が求められる。
なお，これは，教育学科だけでなく，他学科にも役立つ可能性がある。

② このプロジェクトは未知数であるが，これまでも高評価を得ている授業について担当教員にお話を伺う機会があり，参考になっている。これを動画レベルで解析することで，何らかの知見が得られるなら，教育力の向上につながるのはもちろん，認証評価において，評価を得る可能性が高い。

③ 教育学科においては，実習等への参加学生の授業の補填について議論があったが，これを含めて，専任教員の意見交換の時間の確保が難しい。これを改善するだけで，教育力は向上するものと考える。

④　公的な資格・免許は重要であるが，さらに個性を出すために学科独自の資格をつくることを検討してきた。学生にとって，公的な資格免許ではなくても，学んだという達成感を得ることにつながり，一定の教育効果が期待される。
これを大学の意思決定にスムーズにのせるには，大学としてガイドラインをもっておくことが望まれる。

（3）教育効果について記入してください

教育効果は（2）に示した。